

## 日本地理学会 2024年春季学術大会

日本地理学会による2024年春季学術大会は、2024年3月18日（月）～3月21日（木）に、青山学院大学（青山キャンパス）で開催された。業務の都合により19日（火）のみの参加となったが、人口移動と人口減少などに関連する複数の報告があり、刺激を受けた。以下にそれらの、タイトルと報告者名を記す。

また、本大会では、「災害地理学の発展をめざして—日本地理学会の災害対応開始から四半世紀の歩みと今後の展望—」と題したシンポジウムが企画され、2011年の東日本大震災を契機としたこれまでの取り組みが紹介された。社人研は国立の研究所であり、学際的な地理学の学会と異なり、地震などの災害に対して直接的に組織としての対応を求められることはあまり考えられない。ただ、研究機関の社会への貢献という点からは、災害への対応も大きなテーマであり課題でもある。本シンポジウムから、社人研の社会への貢献について、考えさせられたように思う。

「日本における都市階層間の年齢階級別人口移動パターン」

……………小坪将輝（東北大学・学振DC）、中谷友樹（東北大学）

「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」の概要」

……………小池司朗ほか（国立社会保障・人口問題研究所）

「ライフスタイル移住帰還者の類型に関する考察—沖縄県の事例」

……………小原満春（沖縄国際大学）  
（貴志匡博 記）

## アフリカ高齢化と非感染性疾患（NCD）対策に関する国際ワークショップ

2024年3月28日（木）に、オンラインでアフリカにおける高齢化と非感染性疾患（NCD）対策に関する国際ワークショップを開催した。これは筆者が研究分担者となっている文科科研プロジェクト「サハラ以南アフリカ地域における都市部高齢者の課題と政策研究」（研究代表者 山本秀樹帝京大学教授）で実施したものである。第一部はケニア・クワレ地区における高齢者調査について、第二部はケニア・ザンビアの都市部における生涯を通じた教育や高齢者のリハビリテーションについて、第三部はセネガル・モロッコの非感染性疾患対策について、日本やそれぞれの国の担当者が講演し、その後質疑が行われた。

アフリカは高齢者の割合は少ないが、人口自体が大きく増加している中、高齢者の数はアジア、ラテンアメリカと同様に今後20年で2倍程度に増加すると推計され、健康で活動的な高齢社会の構築は重要課題の一つである。これまでは母子保健や感染症に集中しがちであった保健課題も、今では高血圧症、糖尿病、肥満、薬剤依存を含めた精神病などに広がり、多様化している。今回のワークショップでは、アフリカにおける非感染性疾患対策のネットワークであるガリアン・フォーラムの説明もあり、今後の進展が期待される。

（林 玲子 記）

## 第57回国連人口開発委員会

カイロ国際人口開発会議（ICPD）から30年にあたる今年2024年、4月29日（月）から5月3日